

春合宿：朝日連峰ショート

- ◆日程 2023年5月3日(土)～4日(日)
- ◆メンバー L：ST(S)、KT、KN
- ◆天候 晴れ

前日2日に山形県に入りホテルに宿泊した、翌日、山形駅西口前9:15集合した。横浜を早朝出発すると山形駅に到着するには最早時間での集合だ。ジャンボタクシーで古寺鉱泉まで約2時間の道のり、除雪が終わってなく途中迂回したのでタクシー料金も少し高くなった。鉱泉手前にある案内センターで準備をして出発、急登を登り畑場峰に続く尾根に上がった、天気が良いのでここまで日陰以外は雪も残っていなかった。畑場峰からは緩く登り、時々アップダウンを繰り返す、また時々、残雪で登山道を見失い強行突破をして登山道に戻るを繰り返した、朝日岳までピンクテープや目印は殆ど見ていない。

鳥原小屋を目指す平坦な場所で小屋が特定出来ない、水場も水が出ている気配がなかった。しばらくすると赤い鳥居が見えてきた、すぐに鳥原避難小屋だと判った。小屋の裏手に回って気が付いたのだが、2018年の夏合宿で昼寝をした場所だった。小屋は我々だけで占有した、くつろいでから夕食準備、食当はSTでプテチゲ(部隊チゲ)にした、キムチベースの鍋に肉&ソーセージ多数、サリ麺の食事で韓国軍に伝わる料理だそうだ。

翌5月4日、鳥原山を直登する、急登であるが雪の上を行くため幾分楽である。その先の雪の稜線で雪の冬道と登山道が交互に現れ小朝日岳まで延々と歩く、小朝日の急登が間近に迫ると縦隊で一直線に登り始める。小朝日山頂を超えると岩交じりの登山道を急降下する、アイゼンを脱がずに降りたが雪は殆ど無い。更に核心の大朝日を目指しひたすら歩いた、我々は荷物を鳥原小屋にデポしていた。体力勝負の本隊よりは楽ができたが大汗をかいて朝日岳の肩の小屋にたどり着いた。



大朝日小屋から山頂まで20分の空身で登頂し、360°のパノラマを堪能できた。

ここから、鳥原小屋まで引き返すのだが、小朝日を超えるのにとっても苦労した、気温も高くなり休み休みの行動になり鳥原小屋に到着したのが15:30、下山予定が18:00時になった。

雪が更に緩くなり、遠く雪崩の音が聞こえる。来た道を思い出して進むがルートを見失い強行突破をする、日没が迫り18:55に下山、予約したタクシーで山形駅に戻る。幸い最終の新幹線に間に合い東京駅23:15到着する。(記：ST)

CT：1日目 古寺鉱泉 11:35 - 畑場峰 13:30 - 鳥原小屋 15:30

2日目 鳥原小屋 4:40 - 鳥原山 5:05 - 小朝日岳 6:45 - 9:10 大朝日岳 10:30 - 15:20 鳥原小屋 15:50 - 田代清水 17:00 - 古寺鉱泉 18:55